

令和4年度千葉市図書館の評価

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館ビジョン2040」における目標達成に向けた2つの基本目標と施策展開の柱に沿い、令和4年度の図書館評価を示します。

※評価対象：令和4年度、評価実施：令和5年度

基本目標1

特長のある「知の拠点」の実現

施策展開の柱

- 1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進
- 2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)
- 3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実

基本目標2

新たな時代に適応する運営の実現

施策展開の柱

- 1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現
- 2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

評価結果一覧

評価	
A	計画通りに実施でき、一定の成果があった。
B	課題はあるものの、概ね計画通り実施できた。
C	不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。
—	今後取組事項として、研究・検討している。

全体	項目数	内部評価		外部評価	
	5	A	4	A	4
		B	1	B	1
		C		C	
		—		—	

図書館サービスの基本的な取組事項	項目数	内部評価		外部評価	
	1	B		B	

令和4年度 主要事業	項目数	内部評価		外部評価	
	4	A	4	A	4
		B		B	
		C		C	
		—		—	

施策の柱ごとにおける進捗状況について

区分	
達成	事業量に対し、8割以上進捗しているもの
順調	概ね順調に進捗しているもの (事業量に対し、6割以上進捗しているもの)
遅れ	進捗状況に遅れが出ているもの (事業量に対し、6割未満の進捗であるもの)

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現	進捗状況
1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進	達成
2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築 (多様な主体による知の創出・活用)	達成
3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実	達成

基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現	進捗状況
1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現	順調
2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築	順調

図書館協議会外部評価部会委員の意見に対する対応

説明	項目数
意見に対する取組を実施しているもの	14
意見に対する取組について検討しているもの	2
未対応のもの	1

図書館サービスの基本的な取組事項

取組説明	内部評価	取組結果	今後の取組み	外部評価	外部評価者のコメント
資料費を有効に活用し、図書館全体としての計画的な収集、適正な管理、迅速な提供及び基本的な資料提供サービスの充実に努めます。	B	・毎週実施している中央館・地区館職員による合同選定会議や、館内選定会で資料の選定を行い、リクエスト資料など利用者の要望を迅速に反映させ、購入や相互貸借等により、速やかに用意するように努めるなど、多岐にわたる利用者の要望に応えた。 ・利用頻度の低くなった資料の除籍及び所管替えを行い、空いた書架に新刊書等を購入し配架した。 ・CD等を含めた寄贈資料を受け入れ、古くなった資料の入れ替えを行った。 ・日々のカウンター業務の中で寄贈してくださる利用者との人間関係を培い、継続的な寄贈につなげた。 ・来館者に新刊本をお知らせするため、新刊新着本のリストを作成し、新刊本コーナーで提供した。 ・企画展示に併せて関連する資料の購入を行い、展示・紹介する資料の充実に努めた。また、展示・紹介することによって利用促進を図った。 ・中央館・地区館・分館間で資料の一時移管を行い、有効活用した。 ・資料費を計画的に執行するため、不用額が出ないよう各週単位で管理した。 ・中央館・地区館・分館間で地域・行政資料を分担して購入し、予算の有効活用を図った。 ・電子書籍サービスについて、選書による資料提供を300点から1,786点に、提供資料数を8,866点から11,259点に拡充した。また、学校にもギガタブによる利用をチラシで啓発した。（中央） （参考資料） 統計「千葉市の図書館2023」 （P.26）視聴覚資料数の推移 （P.27～33）年間受入・除籍統計 （P.58）電子書籍サービス	・令和4年度も引き続き、コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、取り組んだ結果、前年度と比較し、新規登録者数、来館者数等の項目で増加傾向となった。ただし、コロナ禍前の水準までには戻っていないため、今後もサービスの充実を図っていく。また、来館者、新規登録者を呼び込むためにも、おはなし会や主催行事の充実を図る。 ・図書資料については、利用者の興味関心を広げる企画展示を計画的に実施し、施設の利用につなげていく。 ・資料の充実を図るため、引き続き予算の確保に努める。	B	・「年間貸出利用率」「年間受入図書資料数」「市民一人当たり貸出数及び総貸出数」は確かに前年度より減っているが電子書籍については提供コンテンツ数、貸出点数共に前年度より大幅に増加しているので紙から電子に媒体が移行していると考えればそれほど悲観するような数字ではないと考えられる。 また年間受入図書資料数の減少は、寄贈の減少が主な原因であり購入は電子書籍と合わせればむしろ増加していて評価できる。紙の書籍よりも電子書籍の方が1タイトルあたりの金額が高いので、今までと同じ資料費で電子書籍を増やすとタイトルは減ることになってしまう。電子書籍を購入するための資料費を別名目にするなどして予算確保に努めてほしい。また今後は電子書籍の利用がさらに増えるよう積極的に広報を行ってほしい。 ・来館者数については昨年度もまだコロナの影響はあったので、コロナが5類に移行した今年度は数字の伸びを期待する。 ・令和3年度と比べて、新規登録者数・来館者数が増加しているのは、関係者の努力の成果であると評価できる。 ・ただし、年間貸出利用率・市民一人当たりの貸出数及び総貸出数が減少しているのは気になる。新型コロナウイルス感染症が沈静化に向かいつつあった年度なので、この原因が何であるのか分析してほしい。幅広い市民に利用される図書館であるべきと考えるので、市民のニーズがどのようなもので、それにどう応えていくのかという観点からも検討をお願いしたい。（花見川図書館の改築が影響しているのは承知しつつの意見であるが） ・各図書館、分館、図書室ごとに新刊本の紹介やテーマを設けての書籍の掲示など工夫をこらされている点は素晴らしいと感じる。 ・厳しい財政状況の中で図書資料費の増額を確保できたことは素晴らしい。同じような人口規模の政令指定都市の図書館予算、資料購入費と比較しても遜色ない予算額だと認識する。ただ、増額分の大半を電子書籍購入費が占めており、電子書籍の貸出が増加しているのは評価できるが、電子書籍で提供できる作品には偏りがあると思われるので、今後の電子書籍の購入についてどのように展望するのか、紙の書籍との割合はどのように考えるのか市民のニーズを踏まえて検討していただきたい。 ・今後、図書資料費の大幅な増額は難しいと思われるので、寄贈を増やしていくことも考えられるのではないか。現在、日常のカウンター業務を通じての人間関係を構築していることが寄贈につながっているのは素晴らしいと考える。合わせて、ホームページで寄贈をしてほしい書籍をより具体的に告知しても良いのではないか。また、寄贈による受け入れをどのように内部評価しているのかも知りたいところである。

評価指標	達成目標	R4年度実績	R3年度実績	R2年度実績	R元年度実績
新規登録者数 （公民館図書室での登録者を含む）	対前年度比増	19,810人	18,555人	13,452人	18,977人
来館者数 （館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数）	対前年度比増	197.5万人	197.0万人	162.7万人	250.5万人
年間貸出利用率 （1年間に、図書館を利用した市民の割合）	対前年度比増	市民の 8.5%	市民の 9.8%	市民の 9.0%	市民の 11.4%
年間受入図書資料数 （公民館図書室での受入を含む）	現状維持	44,926冊 （うち購入27,948冊 寄贈16,788冊 その他 190冊）	47,255冊 （うち購入28,074冊 寄贈19,024冊 その他 157冊）	49,429冊 （うち購入32,175冊 寄贈17,102冊 その他 152冊）	56,431冊 （うち購入35,379冊 寄贈20,878冊 その他 174冊）
図書資料費 （上段：当初予算額、下段：決算額）	現状維持	96,596千円 （うち電子書籍8,998千円）	89,137千円 （うち電子書籍3,000千円）	88,621千円	92,214千円
		82,682千円 （うち電子書籍8,998千円）	74,458千円 （うち電子書籍3,541千円）	76,336千円	82,012千円
市民一人当り貸出数 及び総貸出数 （公民館図書室での貸出を含む）	対前年度比増	一人当たり 4.0冊 総貸出数 388万冊	一人当たり 4.1冊 総貸出数 400万冊	一人当たり 3.51冊 総貸出数 345万冊	一人当たり 4.41冊 総貸出数 432万冊
WEB予約件数	対前年度比増	104.6万件	101.4万件	93.2万件	102.0万件
図書館ホームページアクセス件数	対前年度比増	3,892,532件	4,421,009件	3,597,182件	2,410,879件

（コロナ禍前） H30年度実績
21,018人
257.7万人
市民の 12.1%
56,698冊 （うち購入35,722冊 寄贈20,812冊 その他 164冊）
95,789千円
83,763千円
一人当たり 4.41冊 総貸出数 432万冊
102.0万件
2,410,879件

	評価指標	達成目標	R4年度実績	R3年度実績
電子書籍	ログイン数	対前年度比増	53,957回	41,157回 (R3.7.30～)
	提供コンテンツ数		11,259点	8,866点
	貸出点数		16,856点	12,518点
	予約点数		8,263点	6,904点

令和4年度 主要事業 一覧

■主要事業取組項目

No.	項 目	取組説明	R4年度予算	内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
1	花見川図書館の改修(こてはし台公民館との複合化)	花見川図書館の空調設備に不具合が発生し、大規模な改修が必要となったことから、施設の長寿命化を図るとともに、効率的な施設運営や市民の皆様の利便性向上のため、老朽化が進んでいる近隣のこてはし台公民館との複合化をするものです。令和5年度リニューアルオープンに向けて改修工事を行います。	522,530千円 【新規】	A	・R5リニューアルオープンに向けて、大規模改修工事を行った。改修工事期間中は、こてはし台公民館に臨時窓口を設置し、インターネット・電話・窓口で予約された資料の貸出や返却を行い、図書館サービスを極力低下させないよう努めた。	A	・大規模改修工事中も図書利用に関するサービスを保とうと努力されたことは評価できる。 ・複合化は、利便性を考えると一つの方向性を示すものだと理解できる。ただし、リニューアルオープン後の図書館としての規模が縮小され、所蔵資料も減少してしまっているのは寂しく感じる。
2	電子書籍サービスの充実	図書館サービスの更なる利便性向上と「Withコロナ」の時代における新しい生活様式に対応するため、電子書籍サービスの充実に努めます。	8,998千円 【拡充】	A	・選書による資料提供を300点から1,786点に、提供資料数を8,866点から11,259点に拡充した。 ・学校にもギガタブによる利用をチラシで啓発した。 ・年度末時点までの利用状況 ログイン総数 53,957回 貸出数 16,856件 予約数 8,263件 ・決算額:8,998[千円] 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」(P.58)電子書籍サービス	A	・前年度7月30日からのサービス開始ということもあるが、提供コンテンツ数や貸出数が前年度より大幅に伸びており評価できる。電子書籍は若年層の方が利用の敷居が低いと思われるので学校での広報というのは効果的だと感じる。電子書籍用のタブレット端末等を用意し、館内利用限定で端末を貸し出して今まで電子書籍を利用したことのない利用者に体験してもらうということを試行しても良いかもしれない。 ・R4年度、大宮中学校で試験的に取り組ませていただいたギガタブによる電子書籍サービスの利用は、朝読書や、授業での集団読書、発展学習での利用など、様々な可能性を感じさせてくれた。 ・電子書籍購入費の増額に連動して電子書籍の貸出が増加しているのは評価できるが、電子書籍で提供できる作品には偏りがあると思われるので、今後の電子書籍の購入についてどのように展望するのか、紙の書籍との割合はどのように考えるのか市民のニーズを踏まえて検討していただきたい。 ・学校においては特に青空文庫は活用価値があると思われるが、利用啓発を通じてどのように活用されるようになったのかデータ集約をお願いしたい。
3	市民インタビューによる記憶の保存	まちづくりに貢献した市民等の本市発展の記憶を、民間事業者を活用し、インタビュー等を通して「千葉市オーラルヒストリー」として収集・保存します。 (予算措置 3,163千円)	3,211千円	A	・オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等の業務を民間事業者に委託して実施した。インタビューについては、町内自治会連絡協議会会長、商店街連合会会長、民生委員児童委員協議会会長の各経験者や、千葉ロッテマリーンズ、土気シビックウィンドオーケストラなど、10件の取材を実施した。 ・地域おはなしボランティアへのインタビューについては、取材とレポート原稿の作成までは、市民ボランティアと協働で実施し、冊子印刷のみ民間事業者に委託した。 ・上記11件のオーラルヒストリーについては、小冊子及び電子データとして保存した。電子データについては、千葉市地域情報デジタルアーカイブに搭載し、インターネット上で閲覧可能とした。 ・令和4年度に記憶の保存事業において作成したオーラルヒストリー11件のうち1件について、試行的に市民ボランティアを活用した取組みを実施した。市民ボランティアには、インタビュー時の撮影・録音やインタビュー内容の編集作業などをお願いした。	A	・オーラルヒストリーの公開件数が順調に増えていて評価出来る。今後も委託業者やボランティアをうまく活用して作成して欲しい。 ・オーラルヒストリー作成のための業務を民間業者に一部を委託するのは、関わる図書館側の人材の制約もあるうから妥当だと考える。取材対象によって市民ボランティアを活用するという使い分けも良いのではと判断する。ただ、この事業は継続性と統一性が必要であると思われるので、民間事業者選定の際にはその点も配慮をお願いしたい。 ・オーラルヒストリーのインターネット上での閲覧者数のデータは確認できるのだろうか。データがあれば市民の関心の傾向が把握できると思われるので、検討をお願いしたい。 ・将来的には、オーラルヒストリーのテーマを公募しても良いのではないかと考える。 ・千葉市オーラルヒストリーはテーマ及び聞き取りの内容が地に足のついたものになっており、未来へつなぐ「知」の収集・保存という方針に沿ったものになっている。今後は、利活用のさらなる促進を期待したい。また、収集・保存するテーマ及び内容を体系的なものになるように検討を進めていただきたい。
4	地域情報サービスの充実	地域情報をインターネット上で閲覧できるシステムを構築し、令和3年3月からデジタル化された資料の公開を開始しており、千葉市史通史編第3巻のデジタル化及び公開するとともに、アーカイブ化計画の作成を行います。	3,064千円	A	・令和5年3月末、千葉市オーラルヒストリー11件について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計26件) ・デジタルアーカイブシステムADEACを利用し、令和5年3月より、千葉市史 通史編(第3巻)を公開した。 ・専門機関等への意見聴取を行い、千葉市図書館地域情報アーカイブ化計画構成案を2月までに作成し、3月の図書館協議会に諮った。(今後は、委員からの意見を参考に同案の修正を行うとともに、同案について庁内関係課に協議する予定。)	A	・千葉市地域情報デジタルアーカイブのオーラルヒストリーの件数が順調に増えており、一覧画面も見やすくなって評価できる。図書館のトップページからのリンクも以前よりわかりやすくなっている。 地域情報アーカイブ化計画の策定ならびにその計画の実行は新たな業務であるので出来れば職員を増やして対応して欲しい。 ・高度情報化社会の急速な進展によって「歴史から学ぶ、歴史に学ぶ」ことが重視されにくくなったように感じる。その意味でも、千葉市史 通史編(第3巻)が公開されたことは意義深いと思う。

【基本目標1】 特長のある「知の拠点」の実現

1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

		R4_取組項目	R4_取組結果	担当	個別の 内部評価
取組項目	1	【再掲 主要事業No.3】 (1)「知」のアーカイブ化計画の立案・実行 ア まちづくりに貢献した市民等の本市発展の記憶を、民間事業者を活用し、インタビュー等を通して「千葉市オーラルヒストリー」として収集・保存します。 (予算:3,163 [千円])	・オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等の業務を民間事業者に委託して実施した。インタビューについては、町内自治会連絡協議会会長、商店街連合会会長、民生委員児童委員協議会会長の各経験者や、千葉ロッテマリーンズ、土気シビックウィンドオーケストラなど、10件の取材を実施した。 ・地域おはなしボランティアへのインタビューについては、取材とレポート原稿の作成までは、市民ボランティアと協働で実施し、冊子印刷のみ民間事業者に委託した。 ・上記11件のオーラルヒストリーについては、小冊子及び電子データとして保存した。電子データについては、千葉市地域情報デジタルアーカイブに搭載し、インターネット上で閲覧可能とした。	中央	A
	2	イ アーカイブ化する資料の収集方針や年次目標件数・実施体制などを含めた、未来へつなぐ「知」のアーカイブ化計画の作成を行います。	・専門機関等への意見聴取を行い、千葉市図書館地域情報アーカイブ化計画構成案を2月までに作成し、3月の図書館協議会に諮った。 (今後は、委員からの意見を参考に同案の修正を行うとともに、同案について庁内関係課に協議する予定。)	中央	A
	3	(2)本市の歴史的文書の整理・保存など ア 本市の歴史的な資料の整理・保存、セミナーや座談会での使用、企画展示その他の効果的な活用について、検討し、実施します。	・日々のレファレンス事例をファイル化し管理し、所蔵資料の整理を行った。 ・政令指定都市30周年や、市制100周年を記念して発行された刊行物等をはじめとした地域・行政資料や、地域情報の千葉市関連資料を収集及び保存した。 ・地域資料の企画展示を実施した。「政令指定都市 千葉30周年」、「大賀ハス開花70周年」など ・政令指定都市30周年を記念し、千葉市に関する企画展示を行うとともに、地域資料の収集と貸し出しを行った。「政令指定都市移行30周年 1992-2022 30th リーフレット (2022年発行)」など ・緑区関連資料コーナーを、引き続き設置し、緑区で拠点とする団体などが発行するパンフレット等を収集・保存した。(緑)	全館	B

4	【再掲 主要事業No.4】 (3)「知」の提供プラットフォーム(基盤)の構築 (「知」の見える化) ア 地域情報をインターネット上で閲覧できるシステムを構築します。 (予算:3,064[千円])	・令和5年3月末、千葉市オーラルヒストリー11件について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計26件) ・デジタルアーカイブシステムADEACを利用し、令和5年3月より、千葉市史 通史編(第3巻)を公開した。	中央	A
	【R2 外部評価より】 現在のホームページからアーカイブシステムが探しにくいなど、課題が残るので、ホームページの改善を望む。	・リンクバナー「デジタルアーカイブ」の文字を拡大し、見やすくした。 (実施)		
	【R3 外部評価より】 図書館のHPにあるデジタルアーカイブのリンクバナーが「デジタルアーカイブ」の文字が白で小さく写真の方が目立っているため何のバナーかわかりにくい。もう少しわかりやすくして欲しい。			
5	イ アーカイブ化は千葉市史からモデル的に実施し、その結果を検証した上で、博物館等関係機関と協議を進め、資料の選定方針や著作権などの権利処理といった制度の骨格を定め、継続的に取り組んでいきます。	・アーカイブ化はまず千葉市史から実施し、令和4年度は「千葉市史 通史編 第3巻」をアーカイブ化し、デジタルアーカイブシステムADEACを利用し、インターネット上で公開をした。 ・資料の選定方針等を盛り込んだ、千葉市図書館地域情報アーカイブ化計画構成案を、専門機関等への意見聴取を行い、2月までに作成し、3月の図書館協議会に諮った。 (今後は、委員からの意見を参考に同案の修正を行うとともに、同案について庁内関係課に協議する予定。)	中央	A
6	(4)デジタル・アーキビスト等の専門人材の養成 ア 中長期的な視点に立脚した人材育成方針を定め、デジタルの知識や技能を有するデジタル・アーキビスト等の専門人材の養成について、必要な資格取得の支援などを行うことを協議します。	・令和4年度より、千葉市職員資格取得支援助成制度の対象資格にデジタルアーキビストを盛り込み、資格取得支援に向け、周知を図った。	中央	B
	【R3 外部評価より】 デジタル・アーキビストの養成は独自で行うのはなかなか難しいと思うので他機関で行っている講習会などうまく活用して取り組んで欲しい。	・市の資格取得支援制度や人材公募制度の活用により、資格取得を促すことなどに取り組み、人材の養成に努めた。 (実施)		

	7	【再掲 主要事業No.3】 (5)「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築 ア 地域で活動している郷土史研究家や教員OBなどに依頼してモデル的に地域に関する情報収集を実施し、その結果を検証した上で、収集方針やボランティアの活動を支援する仕組みなどの検討を行い、継続的に機能する体制を構築します。 (予算:48[千円])	・令和4年度に記憶の保存事業において作成したオーラルヒストリー11件のうち1件について、試行的に市民ボランティアを活用した取組みを実施した。市民ボランティアには、インタビュー時の撮影・録音やインタビュー内容の編集作業などをお願いした。	中央	A
	8	(6)学習成果などの「市民の知」の発表などに対する支援 ア 地域の歴史などについて、自主的・主体的に研究などを行っている団体への支援内容に関する調査について検討します。	・研究を行っている団体が必要としている支援内容の調査のためにヒアリングなどを実施することや、また、市民が研究した成果を発表できるようなシステムの構築について、他の自治体の取組み等を研究することなどについて、検討することとした。	中央	B
内部評価	進捗状況 達成				A→5 B→3
	主な成果等 (1)アーカイブ化計画策定に向けて、専門機関等への意見聴取を行い、千葉市図書館地域情報アーカイブ化計画構成案を2月までに作成し、3月の図書館協議会に諮った。 (2)「地域行政資料の収集冊数(紙媒体)」が前年度比減となり、行政資料の紙媒体の発行点数は減少傾向にあります。引き続き、「千葉市オーラルヒストリー」や、刊行物等、地域情報の千葉市関連資料の収集に努める。 (3)「千葉市オーラルヒストリー」(11件新規追加)、「千葉市史 通史編(第3巻)」をデジタル化し、図書館ホームページに掲載した。 (4)令和4年度より、千葉市職員資格取得支援助成制度の対象資格にデジタルアーキビストを盛り込んだ。市の資格取得支援制度等の活用により、資格取得を促すことなどに取り組み、人材の養成に努める。				
外部評価者のコメント	(1)オーラルヒストリーの作成は手間がかかる作業であるが、少ない職員で外部業者やボランティアをうまく利用して順調に件数を増やしており評価出来る。長年経過した時に非常に貴重な資料となるので今後も数を増やして欲しい。 (2) ・地域・行政資料や地域情報の千葉市関連資料を収集及び保存は、地味で骨の折れる作業であろうが、図書館として重要な業務であるので引き続きの努力をお願いしたい。 ・地域資料の企画展示もぜひ継続的に取り組んでいただきたい。 (4) ・既存の職員のスキルアップはもちろんのこと、既に知識を持った職員の採用も行なってほしい。 ・デジタルアーキビストなどの専門人材の育成は時間のかかることではあるが、資格取得支援が行われるようになったのは評価できる。実際に関心を示したのはどの程度の人数なのか知りたいところである。また、資格取得ののちには適切な人材配置と業務の評価が不可欠であると思うが、どのような計画を想定されているのだろうか。				

2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)

		R4_取組項目	R4_取組結果	担当	個別の内 部評価
取 組 項 目	9	(1)SNSを活用したイベントの配信 ア 千葉県図書館FacebookやTwitterにより、企画展示、講演会、おはなし会など学びのきっかけとなるイベント情報を配信します。	・Facebookページ及びTwitterページを使い、利用案内やイベント情報を発信することにより、より幅広い層への情報発信を図った。 ・Twitterを活用し、タイムリーな企画展示を周知した。	全館	A
		【R3 外部評価より】 SNSを利用してもらうには、アプリの導入方法、使い方など実際に行う機会を設定することも必要。	・みずほハスの花図書館において、タブレット端末講座を実施した。 (実施)		
	10	(2)学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供 ア 公衆無線LAN(Wi-Fi)環境が整った環境を活用し、市民が集まって学べるスペースや市民間で議論ができるミーティングルームなどの整備について、施設の改修等にあわせ取組みを推進します。	・Wi-Fi環境を活用したミーティングルーム等の整備については施設の改修等にあわせて取り組んでいく。	中央	-

11	(3)市民と知識、知識と知識をつなぐ活動の推進 ア 市民の課題解決を支援するため、レファレンスサービスの充実を図ります。	・窓口のほか電話や手紙によるレファレンスにも迅速に対応し、市民の課題解決の効率化を図った。 ・“調べ方の道案内(パスファインダー)”として、特定のテーマ(地域に関するものも含む)の調べものをされる際の“道しるべ”として、調査に使える基礎資料の一部や調べ方などをホームページで紹介するとともに、館内においてはリーフレットとして配布した。 ・地域に関するレファレンス事例について、館内での事例を蓄積し、レファレンスサービスに生かした。 ・参考資料を購入し、ビジネス参考コーナーなどの参考資料コーナーや書架の充実に努めた。 ・千葉県立図書館など各関係機関の実施する研修に参加し、レファレンススキルの向上に努めた。 ・レファレンスサービスの案内について館内に掲示した。 ・令和4年度は、図書館ホームページからのメールレファレンスを43件実施し、資料情報提供等によるサービスを実施した。(中央) ・レファレンスのPRのため、図書館ホームページの「調べ物相談(レファレンス・サービス)」のページに地域に関するレファレンス事例を掲載した。(累計34件 ※令和4年度に2件追加。既存事例について必要な時点修正も実施。)(中央) 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」 (P.51)レファレンス件数の推移	全館	A
	【R3 外部評価より】 当館のみでレファレンスに対応するには限界があるので、NDL提供のレファレンス協同データベース等のツールを活用して効率的にレファレンスに対応することに努めてほしい。	・日頃より、国立国会図書館レファレンス協同データベースに掲載されている事例や国立国会図書館デジタルコレクションでインターネット公開されている資料を活用して、レファレンスに対応している。 (実施)		
	【R3 外部評価より】 レファレンス事例の紹介やパスファインダーを使って実際に調べるなどレファレンスのイベントの工夫も必要。	・レファレンス事例やパスファインダーについては、図書館ホームページで紹介している。 ・イベント等の際にパスファインダーを実際に使った調べものの体験については実績がないが、令和4年度の読書まつりのイベントにおいて、図書館の資料を使ったクイズラリーを実施した。 (実施)	中央	

12	イ 出会いのある図書館利用の促進のため、講座や企画展示などによる情報発信をします。	・様々な講座を開催した。また、講座に関連するテーマの企画展示を行い、関連資料の貸出を行った。 (例) 子ども読書講座…「キリン研究者郡司芽久先生講演会 キリンのヒミツと研究のお仕事」(中央) 絵本講座…「絵本を読む意味 物語絵本と科学絵本」 (中央) 市民講座…「加曽利E式土器を知ろうー土器づくりの視点からー」(緑)、「中高生のための『サギや悪い大人にだまされないために自分を守る方法』を学ぶ講座」(参加8人) (美浜) 美術講座…「版元・渡邊庄三郎と新版画」(稲毛) 郷土文学講座…「森鷗外と千葉県」(稲毛) ・時季に合わせたテーマの展示など様々な企画展示を行った。 ・企画展示に合わせた資料紹介、展示資料のブックリスト作成を行った。 ・おすすめの資料にポップを付けて、目に触れるように紹介した。 ・企画展示コーナーのほか、タイムリーな話題に対応するミニ展示コーナーを設置し、情報発信を行った。 (例)ミニ展示コーナー…亡くなった著名人(エリザベス女王、大江健三郎)に関する展示(中央)、「政令指定都市移行30周年」、「大賀ハス開花70周年」の節目の年を記念して、地域行政資料などの展示(西都賀) ・ビジネス展示コーナーにおいて、経営・就職関連資料等、ビジネスで活用できるような資料の展示を行った。 テーマ:「就職・転職・資格」、「起業にチャレンジ!」、「フレッシュヤーズ」など(中央) ・児童展示コーナーにおいて、図書館がおすすめする本、科学に関する本、平和に関する本、季節に合わせたテーマの本、課題図書、自由研究等の展示を行った。(中央) ・新刊資料のコーナーを設け、展示コーナーに季節やテーマにそった資料の展示を行った。 ・引き続き子育て応援コーナーを設置し、子育てに関する情報を発信した。(中央) ・メダカの飼育に関する資料と合わせ、本物のメダカも飼育・展示することで、図書館資料や生物への関心を促した。(緑) ・地域の子育て世代にコミュニケーションを図る場の提供・支援を図るため、定例おはなし会や紙芝居の実演等を実施した。 ・新しい本との出会いの機会を設けるため、「夏のお楽しみ袋」(大人向け)、「こどもの本の福袋」(子ども向け)を行った。(打瀬) ・工作等のイベント教室を開催した。 (例)夏休みお楽しみ教室「ペットボトルで顕微鏡をつくろう」、秋の工作教室「パラシュートを作ろう」、冬の折り紙教室(稲毛) 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」 (P.62～68)企画展示 (P.69～73)主催行事(定例おはなし会を除く)	全館	A
----	---	--	----	---

13	(4)生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化 ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。	・生涯学習センターと協力して事業を実施した。「わらべうたと絵本の会」、「子ども読書講座」、「外国語おはなし会」、「読書まつり」(中央) ・「読書まつり」において、生涯学習センター主催のイベントに協力した。「本のポップづくり」(中央) ・「読書まつり」で小・中学校の展示を行った。(中央) ・「読書まつり」において、NPO法人と連携してイベントを開催した。「NPO法人 ちば算数・数学を楽しむ会」に講師の派遣を依頼し、「つくってあそぼう算数工作」(若葉)、小学生を対象とした「おもしろ算数と絵本の会」(美浜) ・「読書まつり」、「夏の親子おはなし会」を鎌取コミュニティセンターとの共催で実施した。(緑) ・夏休みの行事と「読書まつり」において、高校生によるおはなし会を実施した。(若葉) ・夏の児童向けイベントの一つとして「勾玉づくり」を開催した。埋蔵文化財調査センターに講師を派遣してもらい、制作指導していただいた。(緑) ・小・中学校の図書館見学やまちたんけん、職場体験を受け入れた。 ※館によっては、小学校の図書館見学は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、回数や進行で分散を図った。 ・こてはし台小学校で全学年に学年ごとのおはなし会を開催した。(花見川) ・大学と連携・協力し、学生ボランティアによる「英語で楽しむ親子おはなし会」を実施した。(美浜)、(打瀬) ・教員の社会体験研修を受け入れた。7月27日(火)～29日(木):3人、8月17日(水)・25日(木)・26日(金):3人【合計6人】(中央) ・千葉市美術館の展示のため、本の貸出を行った。(中央) ・千葉市科学館の夏行事のため、本の貸出を行った。(中央) ・千葉市科学館と連携して、イベントを開催した。小学生を対象とした「わくわく体験教室」(みやこ)、子ども向けイベント「ペットボトルで顕微鏡をつくろう」(稲毛) ・市民講座の開催にあたり、加曽利貝塚博物館から講師を派遣してもらい、講演いただいた。(緑) ・こども家庭支援課主催の展示「もっと知りたい里親制度」に合わせ、里親や家族に関する本の展示を行った。(中央) ・土気公民館の文学講座「大原を訪れた文人たち」で、土気公民館の特集コーナーに関連図書を展示した。(あすみ) ・こてはし台公民館の活動団体や主催事業に関連する図書資料のリストを作成し配布した。(花見川)	全館	B
----	---	---	----	---

		男女共同参画課の事業として、男女共同参画センター内の情報資料センターの図書等を活用した親子で参加するブックタイムを実施しているが、同センターと図書館が連携した取組みは行っていない。 (※男女共同参画課 R4実績 8月6日(土)子どものためのワークショップ「牛乳パックでつくるブックスタンド」を実施。SDGs関連の絵本の読み聞かせや、牛乳パックを材料としたブックスタンドを作成した。 11月20日(土)子どものためのワークショップ「絵本とアートで！楽しく学ぼうSDGs」を実施。関連図書の読み聞かせや、アクションボードの作成をした。) (未対応)		
14	イ 公民館図書室のサービス向上のため、選書、レファレンス、研修等の支援を行います。	・公民館図書室の選書の一助となるよう、使用済みの新刊全点案内を毎月送付した。 ・公民館図書室からの要望(図書のリクエスト)や問い合わせには迅速に対応した。 ・公民館図書室の資料充実のため、寄贈資料を未所蔵図書室に送るなどの支援を行った。 ・「図書館・生涯学習振興課・公民館管理室・公民館図書室の連絡体制等について」に基づき相互に協力した。 ・公民館図書室職員に、業務の基礎学習による知識習得を図るため、初任者向け研修会への参加を促したところ参加があった。4月21日(木)17人。(中央) ・公民館図書室職員の図書修理技術及び接遇能力向上を図るため、全体研修会への参加を促したところ、参加があった。第1回8月18日(木)3人。第2回12月15日(木)5人。(中央)	全館	A

	15	(5)その他の取組み ア 図書館の利用を促進するため、地域での広報活動や、各種メディアを活用した広報活動を積極的に実施します。	・「市政だより」へおはなし会等イベント情報を掲載した。 ・生涯学習センター広報紙「まなびの森」へイベント情報を掲載した。 ・「図書館だより(年2回発行)」へ近隣小学校との連携やレファレンス事例に関する記事を掲載し、また、より多くの方に手に取ってもらえるよう、レイアウトを見直した。 ・ホームページ、Facebook及びTwitterなど、インターネットを通じた広報を実施した。	中央	A
		【R2 外部評価より】 ホームページで、お知らせとして載せたものが古くなると重要な情報でもトップページから見えなくなってしまう、改善が望まれる(例:図書館以外の返却ポスト)。	・重要なお知らせは、常にお知らせ欄のトップにくるよう固定した。 (例:商業施設内の千葉市図書館図書返却ポストのご利用について) また、固定のお知らせは、定期的に見直しを行い、内容を更新した。 ・トップページお知らせ欄に表示されるお知らせ数を増やした。 (12件→15件) (実施)		
内部評価	進捗状況				A→5 B→1 →1
	達成				
	主な成果等				
	(3)				
	・多様化するレファレンスに対応するため、各関係機関の実施する研修に参加し、担当職員のスキルアップを図った。 ・窓口のほか電話やメールでのレファレンスにも対応し、レファレンスサービスの充実に努めた。 ・引き続き、レファレンスサービスのPRを強化することなどにより、利用促進を図るとともに、レファレンス機能の充実のため、オンラインデータベースを導入し、図書館機能を強化していく。 ・様々な講座や企画展示を実施した。講座の実施にあたっては、講座に関連するテーマの企画展示を実施し、関連資料の貸出をするなど、利用促進につなげる工夫を行った。				
		(4)	・講座や企画展示、おはなし会など関係機関と連携した多くの取組みを実施した。 ・千葉市男女共同参画センター内の情報資料センターとの連携についても今後検討していく。		
		(5)市政だよりなどの広報紙に掲載するとともに、インターネットを通じた広報を実施し、図書館の利用を促進した。			

外部評価者のコメント	(1) SNSを活用したイベントの配信に取り組まれているが、イベントに限定せず、書籍の話題(特定の書籍を取り上げるのは公的機関として好ましくないであろうが)、寄贈の呼びかけ、図書館周辺の草花の移り変わりなどさらに多様な話題を提供してはどうか。担当される方は大変であろうが、例えばTwitterの更新はもう少し頻度を上げてよいのではないかと。また、イベントの告知だけでなく開催後の報告もしてはどうか。
	(3) ・コロナ禍の間大勢で集える機会が少なかったと思うので、企画展示や講座を積極的に開催し、図書館を資料を提供する場だけでなく人と人とが繋がる場としても活用して欲しい。 ・「利用統計」p.51のレファレンス件数は前年比増になっており、コロナ前の水準に戻ってはいないもののこのデータを踏まえると担当職員の研修の成果、日々の努力の成果ととらえたい。ただ、それが貸出冊数の増加につながっていない(p.35)のは残念である。原因の分析をお願いしたい。 ・各地区館や分館が工夫をこらして、様々な講座や企画展示などに取り組まれていることは素晴らしいと評価できる。利用者の反応の良かった企画展示などは、せっかくであるので他館に巡回することはできないだろうか。
	(4) 地域の高齢化が進む中で公民館図書室の役割はますます重要になると思う。寄贈資料の配布による支援などはさらに拡充していただきたい。

3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実

		R4_取組項目	R4_取組結果	担当	個別の内部評価
取組項目	16	(1) 計画的なこどもの読書活動の推進 ア こどもたちがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、令和2年度に策定した「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」に基づき取組みを推進します。	・「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」に基づいて事業を実施した。 ・関係部局に対し、計画事業の進捗状況調査を実施し、進行管理を行った。(中央)	全館	A
	17	(2) こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実 ア こどもの本を知り、本を手渡す術を知るために、必要な研修を実施するとともに、講師として講座事業が実施できるよう、人材の育成を図ります。	・職員及び会計年度任用職員のスキルアップのため外部の研修に参加した。(「千葉県立図書館主催児童サービス基礎研修会」、「千葉県公共図書館協会主催スキルアップ研修会」など) ・各種研修に職員を積極的に参加させ、研修に参加した職員が報告をすることで、職員間で知識を共有した。 ・会計年度任用職員のスキルアップのため、「会計年度任用職員おはなし研修会」を実施した。(中央) ・幼保運営課が実施する保育士向け研修の講師派遣に対応するため、職員の研修を実施した。(中央)	全館	A

18	(3)こどもの本の充実 ア すべてのこども(乳幼児から青少年)の読書活動を支える資料の充実を図り、読書環境の整備に努めます。	・様々な年齢のこども向け新規図書の購入、古くなった図書の除籍、買い替えを行い、読書環境の整備に努めた。 ・情報収集を積極的に行い、あらゆるジャンルの書籍の収集に努めた。 ・児童担当をメインとした館内選書会議を行い、こどもの本の収集の充実を図った。 ・こども向け新規図書の展示や、ブックリスト「よんでみよう」を各年齢に合わせ配架し、おすすめの本を紹介するなど本の紹介に努めた。 ・新刊の情報収集に努め、現物を見て購入検討する等、よりよい資料の収集を行った。 ・新刊の展示・季節の展示を行い、本の紹介に努めた。 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」 (P.76)刊行物(おすすめの本のリスト)	全館	B
	【R3 外部評価より】 こども向けの資料の選書については学校の意見も取り入れて授業で利用する資料を適切に購入出来ると良い。	・教員や学校図書館指導員へのアンケートや聞き取りを実施し、学校の意見を取り入れて、学校用団体貸出資料の選定を行った。 (実施)	中央	
19	(4)こどもや保護者を対象とした取組みの充実 ア 本の楽しさを知り、話し手と聞き手のコミュニケーションを図れるおはなし会やわらべうたの会を、定期的に実施するほか、家族や親子で楽しめる会も開催し、家庭での読書活動につなげます。	・年齢別・対象別のおはなし会を実施した。 ・親子おはなし会を実施した。 ・時季に応じたおはなし会を開催した。 ・わらべうたの会、絵本の会を実施した。 ・中央図書館の「定例おはなし会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、おはなしの部屋が使用できず、開催を見合わせていたが、7月より再開した。(毎週土曜日1日2回実施)(中央) ・こどもが学校休業中に本や図書館に親しむためのイベントを実施した。 (例)「子ども一日図書館員」、「子ども読書講座」(中央)、「親子図書館たんけんツアー」(中央)、「夏休みお楽しみ教室」(稲毛)、「小学生かんたん工作」(若葉) ・ボランティアの協力を得て紙芝居の実演を実施した。 (稲毛) 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」 (P.69)おはなし会(定例) (P.69～73)主催行事(定例おはなし会を除く)	全館	A
	【R3 外部評価より】 職場体験やOPAC操作方法など人気があるので回数を増やせないか。	・OPACの操作方法については、図書館見学の自由閲覧の時間等を活用し、他の事業と併せて実施している。 ・職場体験については、学校からの申し出により実施しており、申し込みがあれば基本的に受け入れている。 (実施)		

20	イ こどもたちが、図書館を十分活用し、必要な情報を収集できるよう、図書館の見学会や資料の検索講座などを行うほか、保護者などに対し、こどもの読書の意義及び目的を啓発します。	・図書館見学・まちたんけん・調べ学習や、「子ども一日図書館員」などで来館したこども達に、OPACの操作方法等を教え、自分で検索できる楽しさを学習してもらった。 ・保護者からのこどもの読書に関する相談に対応した。 ・こどもの読書の意義及び目的を啓発、図書館利用を促進するため、親子参加事業を実施した。 (例)「読書まつり」、「わらべうたと絵本の会」、「子ども読書の日記念親子おはなし会」、「夏・冬の親子おはなし会」、「青少年の日親子おはなし会」 ・こどもが学校休業中に本や図書館に親しむためのイベントを実施した。 (例)「子ども一日図書館員」、「わくわく体験教室」(みやこ)、「夏休みお楽しみ教室」(稲毛) ・こてはし台小学校の希望者に利用カードを発行した。(花見川) ・小中台小学校のPTAを対象にした見学会を開催した。(稲毛)	全館	A
21	ウ こどもが読書に親しむきっかけを作るとともに、家庭での読書の習慣付けを図るため、「読書手帳」を未就学児(年長児)、小学校1年生から6年生に配布します。	・多くの児童生徒に利用してもらえるよう、「どくしよてちょう」を年長児、小学生全学年に配布した。 R4年4月に年長児(約7,300人)に配布。 R4年4月に小学1～3年生用(約22,300人)、4～6年生用(約23,200人)を配布。	中央	A
22	エ 新就学児を対象に図書館利用登録の促進を図るため利用申込書を配布します。	・小学校の新入学児童向けのファミリーブックタイム事例集を市内全小学校に配布する際に、利用申込書も配布(9,330部)した。	中央	A

23	(5)移動図書館車の活用 ア 移動図書館車が学校に訪問することで、こどもたちが学校にいながら本市図書館の図書資料に触れる機会の提供について検討します。 【R2 外部評価より】 小学校1校と児童相談所を移動図書館が訪問したことは評価できる。ステーションの利用状況を検討し、図書館が近くにない地域・学校など、移動図書館車の有効活用の検討を望む。 【R3 外部評価より】 昨年の児童相談所の様に移動図書館を図書館が近くにない学校や施設に利用できないか。	・移動図書館車で児童相談所を訪問し、図書資料に触れる機会を提供した。 ・通町公園でのイベントに移動図書館車が訪問した。 (実施)	中央	A
24	(6)学校・学校図書館との連携・協力の推進 ア こどもの読書活動を継続的に推進するために、学校と連携し児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、学校への団体貸出や、図書館から職員等が学校に向いておはなし会等を行います。	・近隣小学校や中学校と連携し、図書館見学、まちたんけん、職場体験の受け入れを実施した。 ※館によっては、図書館見学は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、回数や進行で分散を図った。 ※職場体験を、椿森中:6月8日(水)～10日(金)、都賀中:6月22日(水)～24日(金)、更科中:6月29日(水)～30日、幸町第一中:11月16日(水)～18日(金)、大宮中:11月29日(火)～30日(水)、みつわ台中:1月25日(水)～27日(金)各3人を受け入れた。(中央) ・近隣小学校6校へ出張おはなし会を実施した。(美浜) ・こてはし台小学校で全学年に、学年ごとのおはなし会を開催した。(花見川) ・「読書まつり」において、小・中学校の展示を行った。(中央) ・「読書まつり」において、近隣の小学校に、好きな本を書いて貼ってもらう参加型の展示「本だいすき」を行った。(若葉) ・こてはし台小学校の希望者に利用カードを発行した。(花見川) ・学校への団体貸出を実施した。(中央) ・学校等の要望を受け、学校用団体貸出資料の充実を図った。※セット内容の見直し等(中央) ・土気南中学校による移動学習の受け入れにおいて、図書館での閲覧をさせるとともに、読み聞かせやギガタブを持参した生徒に対する電子書籍サービスの利用について説明を行った。(あすみ) 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」 (P.55)団体貸出利用統計 (P.74～75)学校等関連施設との連携活動	全館	B

	【R3 外部評価より】 団体貸出は、小学校の利用が多く、単元によって同時期に必要な資料が重なることが多いと聞く。学校図書館間の連絡システムなどを利用し、有効に活用できるような仕組みを検討していただきたい。団体貸し出しの受け取りを地区館で行うなど配送に関しての利便性の向上と、時代とともに新たな資料や児童生徒の興味を引けるようなセット内容の見直しも重要。 団体貸出を利用していない学校に理由を聞き、改善し利用の促進を図る。	・学校用セットについては、地区館、みずほハスの花図書館、花見川団地分館、泉分館、あすみが丘分館での受け取りと返却が可能。 ・教員、学校図書館指導員へのアンケートや聞き取りを実施し、学校の意見を取り入れて、学校用団体貸出資料の選定を行った。 ・学校用セットの内容を見直し、古くなった資料の入れ替えや、新たなセットの作成を行った。 (実施)	中央	
25	イ 図書館資料を市内小・中・特別支援学校で活用するための支援として、「学校レファレンス用カード」の利活用の推進を図ります。	○「学校レファレンス用カード」についてアンケート実施 (令和4年度末・市内の小・中・特別支援学校) 【利用状況】・年1～3回程度 43校 ・2か月に1回程度 7校 ・月1回程度 2校 ・利用していない 65校 【取組についての考え】・たいへん良い・良い 108校 ・あまり良くない・良くない 9校 【意見等】・(団体貸出のような)手続きなしで借りられるのが、便利。 ・貸出冊数が多いとさらによい。 ・予約が可能で、近くの図書館で借りることができる。とさらによい。 ○考察 令和3年度(初年度)と比較すると、利用している学校は増加している。また、複数回の利用もあり、取組としての有用性は理解されていると考えられる。学校の要望に応えられるよう、具体的な検討が必要であるとする。	中央	B
	【R3 外部評価より】 「学校レファレンスカード」は要望が多く良い取り組みであるが利用が少なく改善が望まれる。利用冊数を増やすこと。予約して、地区図書館などで受け取りができるようにするなど、利便性の向上を期待する。	・運用開始2年目でもあるので、教職員の研修等で「学校レファレンス用カード」についての周知を図った。その上で、利用状況を把握することに努めた。 今後、具体的な改善策を検討する。 (検討)		
26	ウ 学校図書館運営委員会において、選書や運営に関する情報交換を行う等、学校図書館と図書館や公民館図書室が連携してこどもの読書活動の推進を図ります。	・学校への団体貸出を行い、レファレンスや読書活動についての相談、また、授業に役立つ資料を紹介した。(中央) ・図書館主任研修会にて、団体貸出について説明した。また、学校図書館主任協議会において、新たな取組や団体貸出について説明した。(中央) ・団体貸出で来館した教員や学校図書館指導員に、聞き取りやアンケートを取り、現在の団体貸出資料について良い点や改善してほしい点について情報を交換している。(中央) ・図書館で不要になった本を、市内小・中・特別支援学校に持ち帰ってもらい活用してもらった。(中央) ・こてはし台小学校に、除籍した児童書をリサイクル図書として活用してもらった。(花見川)	全館	A

27	(7)「千葉市民の知」の学校教育での活用 ア 収集した「千葉市民の知」を授業で活用する際の支援について検討します。 【R3 外部評価より】 千葉市オーラルヒストリーは、どの学年での活用が期待されるのか。ルビがなく小学生には難しく、書誌情報などの参考文献の記載がないので、学習資料にするには対象年齢を考慮し再編集が必要ではないか。	・令和5年3月末、千葉市オーラルヒストリー11件について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計26件)。タブレットを利用した学校授業における活用が期待できる。 ・学校に導入された1人1台端末(以下「ギガタブ」という。)の郷土学習のコンテンツとしての利用について、学校のネットワーク環境やデジタルアーカイブ化した資料の充実度等の状況を踏まえつつ、検討を進める。学校に対しては、デジタル化した地域資料についてのPRを積極的に行っていく。 ・地域学習を始める3年生以上からの活用が期待されるが、オーラルヒストリーは利用対象者を特に限定していないため、内容が小学生には少し難しい面もあるかと思われる。今後は、小学生には難しい漢字にはルビをふるなどの工夫を検討したい。 (検討)	中央	B
28	(8)その他の取組み ア 地域おはなしボランティアの育成を図り、協働して、学校、地域、施設などでの活動を進めます。	・地域おはなしボランティアスキルアップ講座を実施し、知識・技術の向上を図った。('わらべうたの実践」「読み聞かせと紙芝居のためのボイストレーニング」2回)(中央) ・地域おはなしボランティアスキルアップ研修を実施し、読み聞かせに関する知識・技術の向上を図った。('読み聞かせの実演・講評及び選書」、会場:千城台公民館)(若葉) ・近隣施設に地域おはなしボランティアを派遣するための調整を行った。 ・地域からおはなし会の要請があった際、地域おはなしボランティアに協力依頼をし、一緒に活動を行った。 (例)花見川団地自治会からおはなし会の要請があった際、花見川子育てリラックス館に地域おはなしボランティアを派遣し、一緒に活動を行った。(花見川) ・地域おはなしボランティアと共に近隣小学校5校へ出張おはなし会を実施した。(美浜) ・読書まつりの際に、地域おはなしボランティアに、わらべうたやおはなし会、イベント補助を依頼し、協力して実施した。 ※おはなしボランティアの活動派遣は地区館が行っている。 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」 (P.75)地域おはなしボランティア活動	全館	A

29	イ 読書習慣を形成する上で、大きな役割を担う家庭での読書活動をすすめるための「ファミリーブックタイム」運動を推進します。また、地域で読書活動を進める地域・家庭文庫などを支援します。	・各年齢に合わせた「よんでみよう」を館内配布した。 ・ファミリーブックタイムのポスターを掲示した。 ・ファミリーブックタイム事例集を館内配布した。 ・ファミリーブックタイム事例集のブックリストに掲載している資料の展示を行った。 ・児童フロアに地域文庫等の紹介コーナーを作った。(中央) ・地域・家庭文庫からのリクエストを参考に団体貸出用図書を購入した。(中央) ・「読書まつり」において、千葉市文庫連絡協議会による企画を行った(本にまつわるクイズや本の紹介等を行うコーナーの設置)(中央) ・4か月児向けのファミリーブックタイム事例集を各区保健福祉センターに配布(8,200部)し、小学校の新入学児童向けの事例集を市内全小学校に配布(9,330部)した。(中央) ・4か月児検診の際に、図書館のお薦めする本の紹介として、おはなし会の一覧やお薦めの絵本を掲載している「我が家のファミリーブックタイム」を配布し、図書館利用へつなげている。(中央) ・幼保支援課が作成したイクメンハンドブック(育男手帳)に、赤ちゃんへの読み聞かせの準備として特に読んでほしい本を掲載した。(中央)	全館	A
30	ウ 子育て支援施設、生涯学習施設その他で行われるこどもの読書活動推進にかかわる事業について、連携・協力します。	・依頼のあった、施設・公民館で行っている育児サークルへ、地域おはなしボランティアを派遣した。 (例)花見川団地自治会からおはなし会の要請があった際、花見川子育てリラックス館に地域おはなしボランティアを派遣し、一緒に活動を行った。(花見川) ・近隣のコミュニティセンターと連携し、親子おはなし会を実施した。 (例)鎌取コミュニティセンター(緑)、高洲コミュニティセンター(3回実施)(美浜)	全館	A
31	エ 図書館業務の体験学習の機会を設けます。また、司書過程の学生の受け入れ、インターンシップ実習、ボランティア体験の受け入れを行います。	・中学校の職場体験の受け入れを実施した。 ・夏休み期間中に小学3年生を対象とした「子ども一日図書館員」を実施した。 ・要望のあった大学から、インターンシップ実習の受入を行った。 (例)千葉経済短期大学:2人(美浜)、千葉経済大学:2月1日(水)～5日(日)2人(中央) ・司書課程実習の受け入れを行った。東京農業大学:8月2日(火)～12日(金)1人、千葉経済大学短期大学部:8月23日(火)～9月4日(日)2人(中央)	全館	A

	32	オ 図書館が地域の交流の場となるように、読書まつりにおける各種イベントなど、市民の企画・参加による事業を実施します。	【読書まつりで実施した、主な市民の企画・参加型イベント等】 ・好きな本を書いて貼ってもらう参加型の展示「本だいすき」 ・期間の過ぎた雑誌の配布 ・工作教室 ・わらべうたであそぼう、大型絵本おはなし会 ・ボランティア団体による紙芝居の実演やおはなし会 ・地域おはなしボランティアによるわらべうたやおはなし会 ・模造紙に折り紙をちぎって貼ってもらい、知らないうちに、あるデザインに仕上がっているというイベント「ちぎってはって」を開催した。(あすみ) ・千葉市文庫連絡協議会による企画(本にまつわるクイズや本の紹介等を行うコーナーの設置)、としょかんふれんず千葉市による展示を行った。(中央)	全館	A
内部評価	進捗状況				A→13 B→4
	達成				
	主な成果等				
	(2) ・各種研修に参加し、児童サービス担当者のスキルアップを図った。 ・中央図書館において、会計年度任用職員のスキルアップのため、「会計年度任用職員おはなし研修会」を実施した。				
	(3) ・資料の選書については、教員や学校図書館指導員へのアンケートや聞き取りを実施し、学校の意見を取り入れて、学校用団体貸出資料の選定を行った。 ・「児童(小学生)一人当たりの児童用図書の貸出冊数」が前年度比減となったが、年齢と関心にあった資料の充実・提供や、YAコーナーの充実などにより、読書環境の整備に努める。				
	(4) ・中央図書館の「定例おはなし会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、おはなしの部屋が使用できず、開催を見合わせていたが、7月より再開した。(毎週土曜日1日2回実施)				
	(5)移動図書館車で児童相談所を訪問したほか、通町公園でのイベントに移動図書館車が訪問し、図書資料に触れる機会を提供した。				
	(6) ・「団体貸出による児童図書の提供数」が前年度比減、利用学校数も小・中学校共に前年度比減であるため、引き続き、団体貸出用資料の充実や、図書館主任研修会等で団体貸出について説明を行うなど学校に対する団体貸出の利用の働きかけを行う。 ・「学校レファレンスカード」について、令和3年度(初年度)と比較すると、利用している学校は増加している。また、複数回の利用もあり、取組としての有用性は理解されていると考えられる。学校の要望に応えられるよう、具体的な検討が必要であるとする。				
	(7)「ギガタブ」の郷土学習のコンテンツとしての利用について、学校のネットワーク環境やデジタルアーカイブ化した資料の充実度等の状況を踏まえつつ、検討を進める。				

外部評価者のコメント	(4)、(6)「学校レファレンスカード」の利用や「どくしょてちょう」の配布及び活用の様子などは、SNSやホームページで発信して広報に努めても良いのではないかと思います。個人情報や肖像権の問題はあろうが、せっかくの取り組みなので広く知ってもらうことは大切だと考える。
	(6) ・昨年度も学校との連携を密に行いギガタブなどの新たなツールも利用してこどもに読書の習慣を促す活動を熱心に行っており評価出来る。 ・学校との連携は、読書好きのこども達を育てていく上で大変重要だと考える。様々な連携の努力がなされていることは高く評価できる。
	(7) ・電子書籍やデジタルアーカイブ化された豊富な資料にギガタブを使ってスムーズにアクセス・利用できるようになると、様々な授業の工夫が考えられ、児童生徒の知識・学力の向上に大いに寄与すると考える。 ・「千葉市民の知」の学校教育での活用は計画通り積極的に進めていただきたい。その際、活用方法の研究を教員に委託するとか、オーラルヒストリーに関連する書籍や資料を中央図書館に展示するなどの試みを検討してはいいかがか。
	(8) ・受け入れる側は大変だと思うが、職場体験やインターンシップを受け入れることにより、本や図書館に興味を持つ児童や学生が増え、新たな人材育成にも繋がるので今後も積極的に行ってほしい。 ・児童・生徒の職場体験を継続的に実施していることは評価できる。学校との連携の観点から、教員の初任者研修や経験者研修の中の体験研修の受け入れも組織的に検討しても良いのではないかと考える。

【基本目標2】 新たな時代に適応する運営の実現

1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

		R4_取組項目	R4_取組結果	担当	個別の内部評価
取組項目	33	(1)利便性の高い場所へのサービスポイントの設置 ア 利用者の利便性を高めるため、駅前の商業施設などに予約本の受取返却ができるサービスポイントの設置について、施設整備との整合を図りながら検討します。	・R4年5月1日より、新たに図書返却ポストを「ペリエ千葉」及び「ペリエ稲毛」に設置し、サービスを開始した。	中央	A
	34	イ 図書館施設が近くにない地域などに対し、移動図書館車による図書館サービスを提供します。	・市内26カ所のステーションへ、月2回の指定日に巡回し、貸出等のサービスを提供した。 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」(P.54)移動図書館利用統計	中央	A
	35	(2)開館日・開館時間の最適化 ア 利用者の利便性を高めるため、地域の実情に即した開館日・開館時間の最適化について、新たな生活様式への対応も取り入れながら検討します。	・利用者の利便性を高めるため、開館日・開館時間の最適化について、新たな生活様式への対応も視野に入れて検討した。	中央	—

36	(3)インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備 ア 「図書館利用に何らかの障害がある人すべて」に対して、資料を利用する上での障害を、対応機器の整備や人的配慮などにより取り除き、情報提供に努めます。	・大活字本や点字付き絵本、視聴覚図書(朗読CD)、DAISY図書(デジタル録音図書)など高齢者や視覚に障害がある利用者に配慮した資料を収集した。 ・視覚障害等により活字での読書が困難な利用者に対し録音図書等の郵送貸出を行った。(中央) ・対面音訳サービスについては、新型コロナウイルス感染症対策の観点から密閉された区画でのサービスを中止し、広いスペースでサービスを提供した。(中央) ・来館することが困難な身体に障害がある利用者に対し、自宅配本サービス(月2回)を実施した。(地区館) ・自宅配本サービス訪問時に、新刊新着案内を配布し、予約サービスの向上を図った。(地区館) ・障害者サービス研修会及び音訳研修会を行った。(中央) 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」 (P.52)障害者サービス	全館	B
37	イ 日本語以外の言語を母語とする市民のニーズを把握し、中央図書館を中心に、外国語資料の収集・提供や地域の中で生活する上で必要な情報の提供に努めます。	・外国語書誌数 R4: 19,469件 ← R3: 19,374件(中央) ・児童向け外国語資料の購入 R4年度:12冊(中央) ・展示コーナーで外国語資料に係る展示を3回実施した。(英語新着図書の紹介など)(中央) ・外国語を学ぶための資料の収集に努めた。 (例)英語・韓国語・ドイツ語・ベトナム語・イタリア語・ロシア語・中国語・スペイン語・フランス語(花見川) ・中央図書館から中国語の絵本12冊を移管し、展示した。(美浜)	全館	A
38	(4)自動貸出機などによる貸出サービスのセルフ化 ア 利用者の利便性を高めるため、ICTを活用したサービスを提供します。(ICタグ、自動貸出・返却機等の導入等)	・貸出サービスのセルフ化を図るため、花見川図書館のリニューアルオープンに合わせ、自動貸出機などを設置した。 ・その他の図書館についても、施設の再整備に併せて、ICTを活用したサービス(ICタグ、自動貸出機等の設置)を導入することを検討した。	中央	A

39	(5)情報環境の整備 ア 利用者の利便性を高めるため、有料データベース等のデジタル情報サービスの充実などICTを活用したサービスの提供について検討します。	・図書館におけるレファレンス機能の充実のため、有料オンラインデータベース導入のための予算を要望した結果、要望の一部が認められた。 (令和5年度より、「法律・行政」、「経済・経営」、「学術」および「新聞記事」に関する有料オンラインデータベースを導入予定) ・R5.3.1の図書館システム更新に伴い、利用者の利便性の向上を図るため、こどもページのリニューアルや、予約連絡方法変更メニューの追加などを実施した。	中央	B
	【R2 外部評価より】 すべての図書館公民館にWi-Fiが整備されたことは評価する。タブレットの貸し出しや利用者講習などがあれば、利便性が高まるのではないかと。	・タブレットについては、電子書籍お試し閲覧での利用について検討している。また、令和5年度に導入予定の有料データベース閲覧での補助的利用の可否についても検討する。 ・みずほハスの花図書館において、タブレット端末講座を実施した。 (一部実施)		
	【R2 外部評価より】 有料データベースは図書館サービスには不可欠である。中央図書館の機能強化のためにもぜひ財源を確保して、導入を目指し、利用者にもその有用性を広く周知するようにしていただきたい。	・図書館におけるレファレンス機能の充実のため、有料オンラインデータベース導入のための予算を要望した結果、要望の一部が認められた。 (令和5年度より、「法律・行政」、「経済・経営」、「学術」および「新聞記事」に関する有料オンラインデータベースを導入予定) (実施)		
40	【再掲 主要事業No.2】 (6)電子書籍サービスの充実 ア 図書館に来館することなく自宅などで読書が可能となる電子書籍の充実に努めます。 (予算:8,998 [千円])	・選書による資料提供を300点から1,786点に、提供資料数を8,866点から11,259点に拡充した。 ・学校にもギガタブによる利用をチラシで啓発した。 ・年度末時点までの利用状況 ログイン総数 53,957回 貸出数 16,856件 予約数 8,263件 ・決算額:8,998[千円] 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」 (P.58)電子書籍サービス	中央	A
41	(7)利便性の高い利用認証システムの調査研究 ア 市民が「知の拠点」で提供するサービスを利用するに当たって必要となる利用認証に関しては、認証技術の高度化を踏まえ、利便性の向上に資する方法などについて調査研究を進めます。	・現状・課題を整理し、利用認証システムについて調査研究をおこなっていく。	中央	—

42	(8) その他の取組み ア 利用者にとって、見やすく、使いやすい図書館環境を整えるとともに、さまざまな危機事案に適切に対応できる体制を整えます。	【提示】 ・施設内への貼り紙掲示(「雨天時の返却カウンター水濡れ注意」等)をした。 ・利用マナー向上を促すサイン(「本が泣いています」、「雨の日のお願い」など)を掲示した。 ・館内見回りの強化と、利用者への声掛けをした。 ・掲示物を見やすい物に作りなおした。 ・傷んだ掲示物を作り直し、館内の環境整備を図った。 【書架】 ・書架の面展示を継続実施した。(書架ごとのおすすめ本等) ・地域特性として、利用の多い文庫コーナーを拡充した。(美浜) 本を探しやすいよう、以下の取組を実施した ・書架の本を適正な量に削減した。 ・極度に傷んだ資料の除籍や、利用の少ない資料を閉架に移動するなど、書架に適度な空間が生まれるよう整理した。 ・書棚の最上段及び最下段について、利用者より使いづらいとの意見を受け、出来るだけ取りやすく見やすい棚へ資料を移動した。今後も地震等による落下の危険性のある最上段の書棚への配架を極力避ける。 ・新書コーナーを新設した。(花見川) ・利用者にわかりやすいよう、書架の表示の見直しを行った。(中央) ・YAコーナーの配置を見直し、ブラウジングし易くした。(美浜) 【新型コロナウイルス感染症対策】 ・返却図書をウイルス不活性化目安の6時間経過まで保管のち提供とした。 ・カウンター待機列の立ち位置の設置、閲覧席、読書室の席の間引き等を実施した。 ・消毒液の設置、館内の消毒、閲覧席の間仕切りの設置を実施した。 【その他の危機事案対策】 ・火災事故発生を想定し、消火班・誘導班等各班に分かれ、実際に消火ホース(水なし)などを使用した防災訓練を行った。(中央) ・法定義務の点検等は、例年どおり実施した。(中央)	全館	A
----	---	--	----	---

43	イ 市民の図書館利用を促進するため、積極的な広報活動を行います。	・市政だより、図書館だより、市ホームページ、図書館ホームページ、Facebook、Twitter等を活用し、企画展示や市民講座等のイベント情報などを掲載し、資料の紹介や、講座の募集・PR等、図書館事業に関する情報を図った。 ・館内ポスターの掲示や、チラシを窓口に配置した。 ・ポスターやチラシを学校や保育所などの関連施設に配布・設置を依頼してPRを行った。 千葉県図書館ホームページアクセス件数 令和4年度 3,892,532件 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」 (P.53)千葉県図書館ホームページアクセス件数の推移	全館	B
	【R2 外部評価より】 図書館ホームページはイベントや講座のお知らせが探しにくい魅力がない、ホームページアクセス数は年々増加しているので広報として改善が望まれる。	・図書館ホームページについて利用者より説明が不十分等のご意見を多く頂戴していることを受け、システムの改修を要せずに対応可能な部分(利用案内等)の加筆・修正を行った。 (実施)	中央	
	【R2 外部評価より】 Facebookの登録者が少なく、Facebook利用者でなくとも閲覧が可能なように設定を変更したり、更新の頻度を上げるなどの工夫が必要。	・Facebookについては、全庁的に更新できないという不具合が令和2年度に発生し、令和4年1月により不具合が解消し、図書館事業に関する情報を発信した。 ・引き続き、市ホームページ及び図書館ホームページで、Facebookについて掲載し、周知を行った。 (実施)		
44	ウ よりよい図書館運営を図るため、多くの市民のご意見を伺う機会を設けます。	・図書館ホームページ「お問い合わせメールフォーム」や、館内に常設している「意見箱」に寄せられた意見等について、図書館運営の改善に向けた基礎資料とするとともに、回答を希望する利用者への回答を行った。 ・市長への手紙に寄せられた意見に回答し、適切な対応を行った。 ・令和5年1月24日～2月12日に利用者に対し、市図書館(分館含む)及びWEBで千葉県図書館利用アンケート調査を実施した。 ・図書館サービスの満足度は94.5%と、昨年と同様に高水準である。	全館	A

	進捗状況 順調	A→7 B→3 →2
内部評価	主な成果等 (1) ・R4年5月1日より、新たに図書返却ポストを「ペリエ千葉」及び「ペリエ稲毛」に設置し、サービスを開始した。引き続き、利便性向上を図るため、図書返却ポスト設置の検討を行う必要がある。 (3) ・中央図書館において、対面音訳サービスについて、新型コロナウイルス感染症対策の観点から密閉された区画でのサービスを中止し、広いスペースでサービスを提供した。 ・サービス向上を図るため、障害者サービス研修会及び音訳研修会を行った。 ・「図書館利用に障害のある方への情報提供」が前年度比減となったが、引き続き、大活字本や点字付き絵本、視聴覚図書(朗読CD)、DAISY図書(デジタル録音図書)などの充実や、自宅配本サービス訪問時に、新刊新着案内を配布するなど、サービスの向上を図る。 (4)貸出サービスのセルフ化を図るため、花見川図書館のリニューアルオープンに合わせ、自動貸出機などを設置した。 (5) ・図書館におけるレファレンス機能の充実のため、有料オンラインデータベース導入のための予算を要望した結果、要望の一部が認められた。令和5年度より、「法律・行政」、「経済・経営」、「学術」および「新聞記事」に関する有料オンラインデータベースを導入予定。 ・R5.3.1の図書館システム更新に伴い、利用者の利便性の向上を図るため、こどもページのリニューアルや、予約連絡方法変更メニューの追加などを実施した。 (6) ・選書による資料提供を300点から1,786点に、提供資料数を8,866点から11,259点に拡充した。 ・学校にもギガタブによる利用をチラシで啓発した。 (8)千葉県図書館利用者アンケートにおける、サービスの満足度は94.5%と、昨年と同様に高水準である。	
外部評価者のコメント	・全体として、様々なサービスの提供を発案・実施して誰でも利用しやすい環境を整える努力をされていることは評価できる。インクルーシブな観点からサービスを考えていくことは重要だと考える。 (1) ・利用者の利便性を向上させるために返却ポストをアクセスが便利な駅前の商業施設に設置するというのは大変良い試みである。 ・移動図書館車による図書館サービスは、地域の高齢化が進行する状況下では大変有用な取り組みであると思う。 (4)一番利用の多い中央図書館に現在自動貸出機がないので、なるべく早く導入してカウンターの人数を減らしその分アーカイブ担当の職員を増やす等、人材をうまく活用して欲しい。 (6)図書館の今後のあり方を考えると、市民の中のどのような年代、どのような層の利用を拡大しようとするコンセプトを打ち出すのか、限られた予算の配分もその文脈の中で検討していただきたい。電子書籍の購入や利用拡大のための方策も、長期的な視点で考えてほしいと思う。 (8) ・地震の際に資料が落下しないよう最上段の段を使わないという方法もあるが、資料が増えてきて書架が足りない場合には落下防止装置などを備え付けたうえで最上段も利用するという方法もあると思う。 ・新型コロナウイルス感染症の対する対策を状況の応じて丁寧にされてきたことは評価できるし、そのご苦労はご苦労申し上げたい。今後は、コロナ後を見据えての閲覧席の配置などに着手しても良いのではないかな。	

2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

		R4_取組項目	R4_取組結果	担当	個別の内 部評価
取 組 項 目	45	(1)図書館職員の知識経験を活かす効果的な配置と人材の育成 ア 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。	【千葉市主催の研修】 ・新任図書館職員に対し、業務の基礎学習による知識習得を図るため、初任者研修を実施した。4月21日(木)39人。 ・図書館職員(会計年度任用職員を含む)を対象に、第1回目は図書修理技術の習得を図るため、第2回目は接遇の質を高めるため、全体研修会を実施した。 第1回8月18日(木)12人。第2回12月15日(木)8人。 ・図書館業務に関する知識習得を図るため、外部の研修に参加した。(県立中央図書館主催のレファレンス研修会など 研修回数19件、受講者数32人) 参考資料 統計「千葉市の図書館2023」 (P.76)職員研修の実施	中央	B
	46	(2)中央図書館の機能強化 ア 司書等の専門分野を特定するとともに、その分野における能力開発を進め、市民等からの高度な情報ニーズに的確・迅速に対応できる人材、知的交流をファシリテートできる人材の養成について検討します。	・令和4年度より、千葉市職員資格取得支援助成制度の対象資格にデジタルアーキビストを盛り込み、資格取得支援に向け、周知を図った。 ・千葉市職員の人材公募制度や、資格取得支援助成制度の活用により、資格取得を促すことなどに取り組み、人材の養成に努めたい。	中央	B
	47	(3)地区図書館・地区図書館分館の再編 ア 地区図書館・地区図書館分館の再編について施設の再整備に合わせ検討します。	・図書館機能のサービスについて、現状を把握するとともに、課題を整理し、今後の考え方を検討していく。	中央	—
	48	(4)図書資料等の保存・物流機能の一元化 ア 図書資料の物流機能の拡大や施設価値の最大化のため、図書資料の保管機能と物流機能を一体的に担う新たな拠点を整備することについて、図書館利用者や地元住民などの意見を聴取しながら、具現化に向けて検討します。	・現状を把握するとともに、課題を整理し、今後の考え方を検討していく。	中央	—

49	【再掲 主要事業No.1】 (5)図書館施設の老朽化への対応 ア 「千葉市公共施設等総合管理計画」が示す基本方針及び資産の総合評価の結果の見直し方針などを踏まえ、利用ニーズの動向や地域に必要な「知の拠点」としての機能などを整理した上で、学校等との複合化や施設規模のコンパクト化、拠点性のある商業施設への移転の可能性などについて検討を行い、適切に対応します。	・令和2年9月に空調設備に不具合の発生に伴い大規模改修が必要となった花見川図書館と、築40年以上が経過し、老朽化が進む近隣のこてはし台公民館及びこてはし台連絡所を複合化するための工事を行った。（花見川図書館、こてはし台公民館及びこてはし台連絡所の複合化） ・昭和47年に建築された千城台公民館及び同49年に建築された若葉図書館の老朽化のため建て替えが必要となり、千城台南小学校の跡地への移転に向けて、ワークショップやアンケートを実施し、具体的な公民館及び図書館のレイアウト等について、利用者や地元住民等に幅広くご意見をお聞きし、施設の方向性を検討した。（若葉図書館の整備） ・空調設備等改修工事等に伴い、R5.1.11から、一部施設の利用を制限し、その対応として館内に臨時の窓口を設置し、インターネット・電話・窓口で予約された図書資料の貸出や返却等を行った。R5.3.6に工事が完了し、翌日7日に利用制限を解除して通常開館をした。（緑図書館の空調設備改修工事）	中央	A
50	【再掲 主要事業No.1】 イ 花見川図書館を改修すると同時に、同じく老朽化しているこてはし台公民館の機能を図書館の2階に再配置し、複合施設として地域の拠点性を高め、利用者の利便性向上及び複合化の相乗効果による効率的な施設運営を図るため、令和5年度リニューアルオープンに向けて改修工事を行います。 （予算：522,530 [千円]）	・R5リニューアルオープンに向けて、大規模改修工事を行った。改修工事期間中は、こてはし台公民館に臨時窓口を設置し、インターネット・電話・窓口で予約された資料の貸出や返却を行い、図書館サービスを極力低下させないよう努めた。	中央	A
51	ウ 若葉図書館は千城台南小学校の跡地に移転し、同じく移転をする千城台公民館との複合施設として整備します。整備にあたっては、市民、利用者のニーズを把握するために、市民ワークショップや利用者アンケートを実施し、広く意見・要望を取り入れながら、複合施設の基本計画に可能な限り反映させながら進めていきます。	・ワークショップやアンケートを実施し、利用者や地域の意見を聴取するとともに、基本計画の策定に向けて、関係機関と連携して、同計画に盛り込むべき項目（骨子）について検討した。 6月5日及び同月19日開催…市民等向けワークショップ 8月25日～同月16日…インターネットアンケート 9月1日～同月16日…利用者アンケート 9月20日開催…学校ワークショップ（千城台東小4年生、千城台南中1年生）	中央	A
52	(6)民間機能の活用 ア サービスポイントとして再整備した施設の運営については、庁内関係部署や関係機関との協議を行った上で、民間機能を活用した運営について慎重に検討します。	・民間機能の活用を進めるにあたっては、関係部局や関係機関と協議を行った上で、慎重に検討していく。	中央	—

53	(7)運営資金を確保する新たな手法の検討 ア 運営資金の確保に努めるため、予算対応を行うとともに、寄付金受入や募金箱の設置及び雑誌カバーを活用した新たな広告事業等による広告料、地元企業などからの支援やクラウドファンディングなど、新たな手法について検討します。	・図書資料費(R5予算)の確保については、厳しい財政状況下において可能な限りの予算確保に努めた。 予算額:94,616千円(前年比5,476千円増) ・図書資料の整備に充てるため寄附金の受入や募金箱を設置し、資料費の確保に努めた。 *寄附金収入(R4決算見込):276,731円(前年比154,809円減) ・広告料収入を確保するため、民間事業者による、ホームページバナー広告のほか、雑誌カバー等への広告を実施した。 *広告料及び目的外使用料(R4決算見込):978千円(前年比16千円減)	中央	A
54	(8)関係機関との連携 ア 市民の持つ様々な技術、知識、経験をボランティアとして、図書館サービスに資することで、豊かな体験ができる活動の場を増やします。	・移動図書館のステーションマスター(有償ボランティア)による図書館サービスの提供を実施した。	中央	A
55	イ 図書館相互間、地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体などとの協力を推進します。	・市内未所蔵資料について、県内他市図書館から相互貸借により取り寄せ、利用者に提供した。 ・利用者の希望資料が、県内他市図書館に所蔵がない場合は、国立国会図書館や県外図書館に所蔵確認し、資料を提供できるよう努めた。 (相互貸借の場合は、利用者に、提供に時間がかかることや、延長不可などの了承を得て取り寄せを行った。) ・千葉県図書館情報ネットワーク協議会事業等により、千葉市内の図書館施設との連携を図った。(中央) ・千葉県図書館情報ネットワーク協議会HPIに加盟館のイベント情報などを掲載するなど、加盟館の情報発信に努めた。(中央)	全館	A
56	(9)施設名称の検討 ア 市民と「知の拠点」との距離感を縮め、また、「知」の創出への参加意識を醸成するため、すべての市民の「知の拠点」に相応しい名称や愛称などについて検討します。	・施設名称等については、施設の再整備に併せて、公共施設名称設定指針に基づき、検討していく。	中央	—
57	(10)その他の取組み ア 図書館運営に多様な市民の意見を反映させるため、図書館協議会に、公募による委員を登用します。	・委員の改選を行い、2人の公募委員を含めた10人の委員を委嘱した。	中央	A

	進捗状況 順調 主な成果等 (1)よりよい図書館サービスを提供するため、図書館職員の専門性を高める研修の実施や、県立中央図書館などが主催する外部の研修に参加した。 (5) ・R5リニューアルオープンに向けて、大規模改修工事を行った。改修工事期間中は、こてはし台公民館に臨時窓口を設置し、インターネット・電話・窓口で予約された資料の貸出や返却を行い、図書館サービスを極力低下させないよう努めた。(花見川図書館、こてはし台公民館及びこてはし台連絡所の複合化) ・ワークショップやアンケートを実施し、利用者や地域の意見を聴取するとともに、基本計画の策定に向けて、関係機関と連携して、同計画に盛り込むべき項目(骨子)について検討した。(若葉図書館の整備) (7)図書資料費については、厳しい財政状況の中、可能な限りの予算確保及び、寄付金受入などの外部資金を確保し、予算獲得のための取組みを行った。 (8) ・移動図書館のステーションマスター(有償ボランティア)による図書館サービスの提供を実施した。 ・本市図書館が所蔵していない資料は、図書館間の相互貸借等により、市民が必要とする資料を提供できるように努めた。 ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会により、地域の図書館が館種を超えて連携・協力をし、図書館サービスの向上を図った。	A→7 B→2 →4
外部評価者のコメント	(1) ・研修については自前で行うことは限界があり、図書館関係の研修は外部で色々な研修が対面だけでなくオンラインも含めて行われているのでうまく活用して欲しい。 ・図書館職員の研修を継続的に実施されていることは評価できる。今後も、専門性を高めるための研修等に積極的に取り組んでいただきたい。 (5)若葉図書館の複合施設としての整備は、地区館としての機能と規模を維持できるように進めていただきたい。その際、花見川図書館の運営状況も踏まえて、検討をお願いしたい。 (6)サービスポイントとして施設の再整備については、今後どのような展望を持たれているのか。民間機能の活用について、図書館の利用状況のデータは個人情報にあたる部分が多いと思われるので、その点も踏まえて慎重をお願いしたい。	

No.	評価指標	達成目標	R4年度実績	R3年度実績	R2年度実績	R元年度実績
図書館サービスの基本的な取組事項	新規登録者数 (公民館図書室での登録者を含む)	対前年度比増	19,810人	18,555人	13,452人	18,977人
	来館者数 (館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数)	対前年度比増	197.5万人	197.0万人	162.7万人	250.5万人
	年間貸出利用者率 (1年間に、図書館を利用した市民の割合)	対前年度比増	市民の 8.5%	市民の 9.8%	市民の 9.0%	市民の 11.4%
	年間受入図書資料数 (公民館図書室での受入を含む)	現状維持	44,926冊 (うち購入27,948冊 寄贈16,788冊 その他 190冊)	47,255冊 (うち購入28,074冊 寄贈19,024冊 その他 157冊)	49,429冊 (うち購入32,175冊 寄贈17,102冊 その他 152冊)	56,431冊 (うち購入35,379冊 寄贈20,878冊 その他 174冊)
	図書資料費 (上段:当初予算額、下段:決算額)	現状維持	96,596千円 (うち電子書籍8,998千円)	89,137千円 (うち電子書籍3,000千円)	88,621千円	92,214千円
			82,682千円 (うち電子書籍8,998千円)	74,458千円 (うち電子書籍3,541千円)	76,336千円	82,012千円
	市民一人当たり貸出数 及び総貸出数 (公民館図書室での貸出を含む)	対前年度比増	一人当たり 4.0冊 総貸出数 388万冊	一人当たり 4.1冊 総貸出数 400万冊	一人当たり 3.51冊 総貸出数 345万冊	一人当たり 4.41冊 総貸出数 432万冊
	WEB予約件数	対前年度比増	104.6万件	101.4万件	93.2万件	102.0万件
電子書籍	図書館ホームページアクセス件数	対前年度比増	3,892,532件	4,421,009件	3,597,182件	2,410,879件
	ログイン数	対前年度比増	53,957回	41,157回 (R3.7.30～)	—	—
	提供コンテンツ数		11,259点	8,866点	—	—
	貸出点数		16,856点	12,518点	—	—
	予約点数		8,263点	6,904点	—	—
3	地域行政資料の収集冊数 (公民館図書室での収集冊数を含む)	現状維持	2,953冊	3,454冊	3,795冊	3,509冊
11	レファレンス受付件数	対前年度比増	77,588件	74,149件	67,292件	90,113件
12	一般向け図書館講座の開催回数及び参加者数	対前年度比増	17回 315人	14回 224人	13回 192人	25回 843人
18	児童(小学生)一人当たりの児童用図書の貸出冊数	対前年度比増	31.74冊	32.21冊	25.58冊	31.58冊
19	おはなし会等の開催回数及び参加者数	対前年度比増	621回 4,889人	602回 3,826人	241回 1,805人	772回 9,585人
24	学校等関連施設と連携事業を行った回数 (図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での利用案内等の連携事業を行った回数)	対前年度比増	167回	145回	151回	449回
	団体貸出による児童図書の提供数	対前年度比増	12,891冊	15,707冊	24,183冊	20,909冊
28	地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	対前年度比増	30回 74人	12回 49人	5回 20人	89回 271人

No.	評価指標	達成目標	R4年度実績	R3年度実績	R2年度実績	R元年度実績
30	連携事業等実施数 (学校以外の機関(保育所・幼稚園等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数)	対前年度比増	43件	19件	9件	236件
36	図書館利用に障害のある方への情報提供	対前年度比増	対面音訳件数 0件 貸出冊数 6,339点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 7,560点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 7,154点	対面音訳件数 14件 貸出冊数 7,414点
44	千葉市図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	現状維持	満足 59.3% やや満足 35.2% 計94.5%	満足 58.6% やや満足 36.3% 計94.9%	満足 54.5% やや満足 38.7% 計93.2%	満足 53.8% やや満足 41.1% 計94.9%
45	職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講者数	現状維持	32回 延べ 221人	33回 延べ 261人	26回 延べ 146人	65回 延べ 414人
46	司書資格を有する職員の割合	対前年度比増	54.5% 正規職員 20.8% 会計年度任用職員 100%	55.9% 正規職員 23.5% 会計年度任用職員 100%	54.2% 正規職員 21.6% 会計年度任用職員 98.7%	51.9% 正規職員 20.8% 会計年度任用職員 94.8%
55	図書館間相互貸借資料数	現状維持	借受 8,164冊	借受 8,533冊	借受 6,536冊	借受 7,476冊
		対前年度比増	貸出 8,145冊	貸出 7,984冊	貸出 6,888冊	貸出 9,378冊

【主な成果等】

総合的には、一定の業務水準を確保することができたと考える。

図書館サービスの基本的な取組事項

- 令和4年度も引き続き、コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、取り組んだ結果、前年度と比較し、新規登録者数、来館者数等の項目で増加傾向となったが、全体的に、コロナ禍前の水準までには戻っていないため、今後もサービスの充実を図っていく。また、来館者、新規登録者を呼び込むためにも、おはなし会や主催行事の充実を図る。
- 年間貸出利用率・市民一人当たりの貸出数及び総貸出数は、紙媒体の数値であり、減少した要因として、花見川図書館大規模改修による休館や、図書館システム更新により公民館図書室を含む全館で1週間貸出不可(※閲覧のみ可)、電子書籍サービスの提供の影響などが考えられるが、引き続き、利用者の興味関心を広げる講座や企画展示を計画的に実施し、資料の貸出につなげる。
- 寄贈資料については、令和4年度に575件(4,178点)受入れを行っており、令和3年度の595件(4,371点)と比べ若干減少しているため、今後、図書館ホームページ等で寄贈を呼び掛けるなど、積極的に資料の収集を図る。

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現

1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

- 令和4年度より、千葉市職員資格取得支援助成制度の対象資格にデジタルアーキビストを盛り込んだものの、制度の利用があった者がいなかったため、今後も資格取得支援に向けて周知を図っていく。また、資格取得後は、資格をいかせるような部門へ配置するなど、適切な人材配置を行うとともに、人事部門にもデジタルアーキビストの資格取得者の図書館への配置を要望していく。職員のほか、会計年度任用職員の資格取得についても、具体策を検討していきたい。

2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)

- 窓口のほか電話やメールでのレファレンスにも対応し、レファレンスサービスの充実に努めた結果、前年度比増となったが、コロナ禍前の水準までには戻っていないため、引き続き、レファレンスサービスのPRを強化することなどにより、利用促進を図る。また、レファレンス機能の充実のため、令和5年度より、「法律・行政」、「経済・経営」、「学術」及び「新聞記事」に関するオンラインデータベースを導入し、図書館機能を強化していく。
- 利用案内やイベント情報などを、ホームページやSNSにて発信し、より幅広い層への情報発信を行ったが、今後はさらに投稿頻度を増やせるよう努めていく。

3 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

- 団体貸出による児童図書の提供数が前年度比減、利用学校数も小・中学校共に前年度比減であるため、引き続き、団体貸出用資料の充実や、図書館主任研修会等で団体貸出について説明を行うなど学校に対する団体貸出の利用の働きかけを行う。
- 学校レファレンスカードについて、令和3年度(初年度)と比較すると、利用している学校は増加、また、複数回の利用もあり、取組としての有用性は理解されていると考えられるが、今後利用拡大に伴い、現在は10冊を上限に1ヵ月貸し出す運用だが、貸出冊数を増やすなど、学校の要望に応えられるよう、具体的な検討が必要であると考ええる。
- 「千葉市民の知」の学校教育での活用について、ギガタブの郷土学習のコンテンツとしての利用について、学校のネットワーク環境やデジタルアーカイブ化した資料の充実度等の状況を踏まえつつ、検討を進める。令和4年度の読書まつりにて中央図書館で千葉市オーラルヒストリーに関する展示を実施し好評であったが、中央図書館内の地域資料の場所が奥まったところにあり、来館者に分かりにくい点が課題であるため、今後も展示方法等工夫し、定例的に実施できるよう検討していく。学校に対しても、デジタル化した地域資料についてのPRを行っていく。

基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現

1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

- ・R4年5月1日より、新たに図書返却ポストを「ペリエ千葉」及び「ペリエ稲毛」に設置し、利便性向上を図った。引き続き、利便性向上を図るため、図書返却ポスト設置の検討を行う必要がある。
- ・貸出サービスのセルフ化を図るため、花見川図書館のリニューアルオープンに合わせ、自動貸出機などを設置し、利便性向上を図った。引き続き、その他の図書館についても、施設の再整備に併せて、ICTを活用したサービス(ICタグや自動貸出機等の設置)の導入を検討していく。
- ・電子書籍サービスについて、選書による資料提供を300点から1,786点に、提供資料数を8,866点から11,259点に拡充し、サービスの向上に努めた。年代別の利用状況は、最も利用が多かった世代は6～12才で20.2%、次に50～59歳が19.3%、40～49歳が18.1%、小学生は夏休み期間中の利用が他の年代と比較して大変多いが、一方で中学生や高校生の利用が少ないのが課題である。(小学生年代の利用状況…7月:33.9%、8月:27.6%)
- ・千葉市図書館利用者アンケートにおける、サービスの満足度は94.5%と、昨年と同様に高水準である。

2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

- ・花見川図書館、こてはし台公民館及びこてはし台連絡所の複合化について、改修工事期間中は、こてはし台公民館に臨時窓口を設置し、インターネット・電話・窓口で予約された資料の貸出や返却を行い、図書館サービスを極力低下させないよう努めた。

【方針】

以上のことから、引き続き限られた予算の中で、最大限の図書館サービスの提供を目指し、一つ一つの課題を解決していくために次のような取組みを実施する。

- ・「知」の拠点として、豊かな市民生活や本市の発展に貢献できるよう、将来の図書館の在り方や施策展開の方向性を示した「千葉市図書館ビジョン2040」を推進する。
- ・こどもたちがあらゆる機会に、あらゆる場所において自主的に読書活動ができるよう、「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」を推進する。
- ・資料の充実を図るため、引き続き資料費予算の確保に努める。

外部評価

図書館サービスの基本的な取組事項

- ・紙媒体数値の「年間貸出利用率」・「年間受入図書資料数」・「市民一人当たり貸出数及び総貸出数」は、花見川図書館大規模改修による休館の影響などを受けて前年度より減っているが、電子書籍については提供コンテンツ数、貸出点数共に前年度より大幅に増加している。また、「年間受入図書資料数」の減少は、寄贈の減少が主な原因であり、購入は電子書籍と合わせればむしろ増加していて評価できる。コンテンツの充実や、紙の書籍との割合について、市民のニーズを踏まえて予算の配分等検討していただきたい。
- ・「新規登録者数」・「来館者数」が増加しているのは、関係者の努力の成果であると評価できるが、令和4年度もまだコロナの影響はあったので、コロナが5類に移行した令和5年度は数字の伸びを期待する。
- ・今後、図書資料費の大幅な増額は難しいと思われるので、寄贈による収集にも努めてほしい。

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現

1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

- ・オーラルヒストリーの作成は手間がかかる作業であるが、少ない職員で外部業者やボランティアをうまく利用して順調に件数を増やしており評価出来る。長年経過した時に非常に貴重な資料となるので今後も数を増やして欲しい。テーマ及び聞き取りの内容が地に足のついたものになっており、未来へつなぐ「知」の収集・保存という方針に沿ったものになっている。今後は、利活用のさらなる促進を期待したい。また、収集・保存するテーマ及び内容を体系的なものになるように検討を進めていただきたい。

2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)

- ・ SNSを活用したイベントの配信に取り組まれているが、イベントに限定せず、多様な話題の提供(寄贈の呼びかけや、ニュースに関連した資料の紹介など)や、イベントの告知だけではなく開催後の報告など、投稿頻度の向上に努めていただき、積極的に情報発信していったほうがよいと考える。
- ・ コロナ禍の間大勢で集える機会が少なかったと思うので、企画展示や講座を積極的に開催し、図書館を資料を提供する場だけでなく人と人とが繋がれる場としても活用して欲しい。

3 未来を担うこどもたちの読書環境の充実

- ・ 学校現場において、電子書籍やデジタルアーカイブ化された豊富な資料にギガタブを使ってスムーズにアクセス・利用できるようになると、朝読書や、様々な授業の工夫が考えられ、児童生徒の読書への関心を高めるきっかけや、知識・学力の向上に大いに寄与すると考える。一方、図書館の利用登録をしていない児童生徒が多いため、利用登録なしでも電子書籍を活用できる体制づくりを検討されたい。

基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現

1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

- ・ 利用者の利便性を向上させるために、返却ポストをアクセスが便利な駅前の商業施設に設置したことや、移動図書館車による図書館サービスは、地域の高齢化が進行する状況下では大変有用な取組みであると思う。全体として、様々なサービスの提供を発案・実施して誰でも利用しやすい環境を整える努力がされていることは評価できる。インクルーシブな観点からサービスを考えていくことは重要だと考える。

2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

- ・ 花見川図書館大規模改修工事中も、図書利用に関するサービスを保とうと努力されたことは評価できる。複合化は、利便性を考えると一つの方向性を示すものだと理解できるが、今後も施設の整備にあたっては、図書館機能を維持できるよう進めていただきたい。